

愛知大学人文社会学研究所 公開講座



功德と喜捨と贖罪

— 宗教の政治経済学 —

■日時

6/3(土) 10:30~12:00

「解脱」の経済的意味

伊東利勝 (愛知大学文学部・教授)

6/10(土) 10:30~12:00

仏典に説かれる功德と廻向のしくみ

藤本 晃 (誓教寺・住職)

6/17(土) 10:30~12:00

人を結ぶ仏教功德と精霊祭祀の〈経済〉

林 行夫 (龍谷大学文学部・教授 京都大学名誉教授)

6/24(土) 10:30~12:00

イスラーム社会における喜捨

—中央アジアのカザフを中心に—

藤本透子 (国立民族学博物館人類文明誌研究部・准教授)

7/1(土) 10:30~12:00

贖罪と喜捨 —西洋中世の地平—

佐藤彰一 (日本学士院会員 名古屋大学名誉教授)

▼ 講演要旨

http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/report_0603.pdf

■会場

愛知大学 豊橋校舎
研究館1階 第1・2会議室

聴講無料

2017.6.3~7.1 (毎土曜日)

全5回



申込不要

定員 40 名 (当日先着順)

※ 開場 10:00



交通アクセス

豊橋鉄道渥美線
「愛知大学前」下車すぐ

※ご来場の方は公共交通機関を
ご利用ください。



お問い合わせ先

愛知大学人文社会学研究所

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

TEL : 0532-47-4167

E-mail : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>



趣旨

宗教は、それぞれ特定の世界観を提示し、その原理を明らかにすることによって、人々に苦から解放される道を示してきました。これは、指定された生活規範を守り、かつ実践することよりもたらされるといわれます。しかし一方で、とりわけ積徳や喜捨や贖罪は、個人のみならず、自動的に社会を政治的にも経済的にも安定に導くためのものでもあったようです。仏教、イスラーム、キリスト教にみられる功德や喜捨や贖罪の思想と、これによって構想される社会の姿をとおして、現代社会とそこに生きる私たちの姿をあぶりだします。

伊東利勝
(いとう としかつ)

専攻：歴史学，東南アジア史。著作に『多民族共生社会のゆくえ—昭和初期・朝鮮人・豊橋』(あるむ,2007),『ミャンマー概説』(編著,めこん,2011),『南伝上座仏教と現代』(編著,愛知大学人文社会学研究所,2017),などがある。

藤本 晃
(ふじもと あきら)

専攻：インド仏教学(特にパーリ語聖典による原始仏教)。著作に『功德はなぜ廻向できるの?』(国書刊行会,2006),『お布施ってなに?』(国書刊行会,2007),『餓鬼事経—死者たちの物語』(サンガ,2016)などがある。

林 行夫
(はやし ゆきお)

専攻：文化人類学，東南アジア仏教徒社会の宗教。著作に『生きている文化を人に学ぶ』(京都大学学術出版会,2017),『新アジア仏教史 4(スリランカ・東南アジア)』(共編著,佼成出版社,2011),『ラオ人社会の宗教と文化変容』(京都大学学術出版会,2000)などがある。

藤本透子
(ふじもと とうこ)

専攻：文化人類学，中央アジア地域研究。著作に『よみがえる死者儀礼—現代カザフのイスラーム復興』(風響社,2011),『現代アジアの宗教—社会主義を経た地域を読む』(編著,春風社,2015),「カザフスタンにおける喜捨の展開—アッラー・死者・生者の関係に着目して」(岸上伸啓編『贈与論再考』臨川書店,2016,161-182頁)などがある。

佐藤彰一
(さとう しょういち)

専攻：西洋中世史。著作に『修道院と農民 会計文書から見た中世形成期ロワール地方』(名古屋大学出版会,1997),『禁欲のヨーロッパ』(中央公論新社,2014),『贖罪のヨーロッパ』(中央公論新社,2016)などがある。